



# 米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—経済指標を好感し上昇 ダウ平均は1万7000ドルを突破—

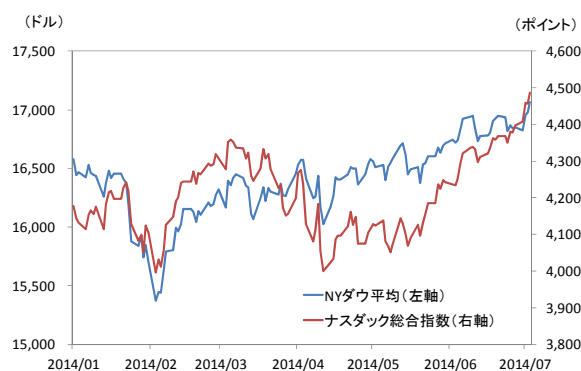
	前週終値	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	16,851.84	16,826.60	16,956.07	16,976.24	17,068.26	休場	+216.42	+1.28%
騰落幅		-25.24	+129.47	+20.17	+92.02			
S&P500	1,960.96	1,960.23	1,973.32	1,974.62	1,985.44		+24.48	+1.25%
騰落幅		-0.73	+13.09	+1.30	+10.82			
ナスダック総合指数	4,397.93	4,408.18	4,458.65	4,457.73	4,485.92		+87.99	+2.00%
騰落幅		+10.25	+50.47	-0.92	+28.19			

## ＜先週の概況＞

先週の米国株式市場は、ダウ平均が連日史上最高値を更新、7月3日には初めて1万7000ドルの節目を突破しました。新車販売台数や雇用統計などの重要な経済指標が市場予想を上回る改善を見せたことが好感されました。

ハイテク株比率の高いナスダック総合指数は週間の上昇率ではダウ平均やS&P500を上回る堅調な値動きを見せました。なお、7月4日は独立記念日の祝日のため休場でした。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



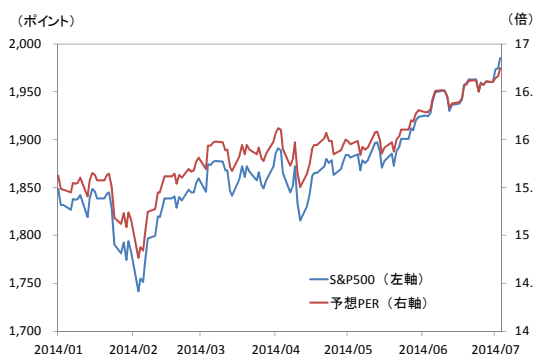
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## 米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	15.2	3.0	2.3%
S&P500	16.7	2.8	2.0%
ナスダック総合指数	21.8	3.5	1.1%

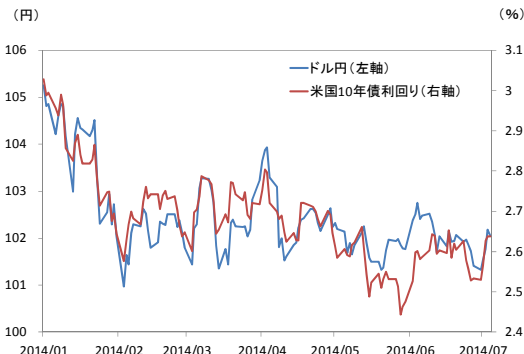
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2014年7月3日時点)

S&P500と予想PERの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

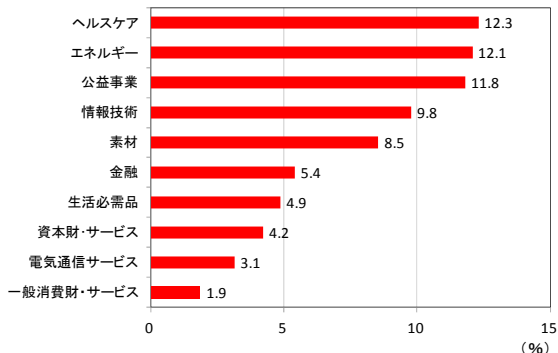
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

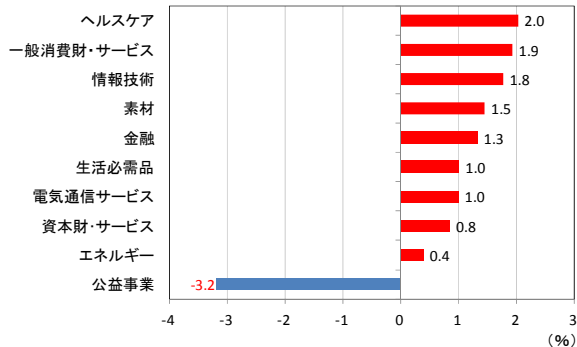
## 業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (6/30-7/3)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
IBM	IBM	3.8
V	Visa	3.5
MRK	メルク	2.9
PFE	ファイザー	2.9
CAT	キャタピラー	2.1
CSCO	シスコシステムズ	2.0
DIS	ウォルト・ディズニー	1.8
UNH	ユナイテッドヘルスグループ	1.6
GS	ゴールドマン・サックスグループ	1.6
GE	ゼネラル・エレクトリック	1.6

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング (6/30-7/3)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
MSFT	マイクロソフト	-1.1
UTX	ユナイテッド・テクノロジーズ	-0.9
JPM	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	-0.7
MCD	マクドナルド	-0.5

(出所) マネックス証券作成

### <上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中26銘柄が上昇しました。メルク (MRK) やファイザー (PFE) といった製薬関連が堅調でした。ニューヨーク司法長官がバークレイズ銀行を提訴したことによる影響波及懸念から前週下落していたゴールドマン・サックス (GS) が反発しました。フランス重電大手のアルストムの買収先として正式に選定されたゼネラル・エレクトリック (GE) も上昇しています。

### <下落>

マイクロソフト (MSFT) など4社が下落しましたが、特段の材料はなく下げ幅は小幅にとどまりました。

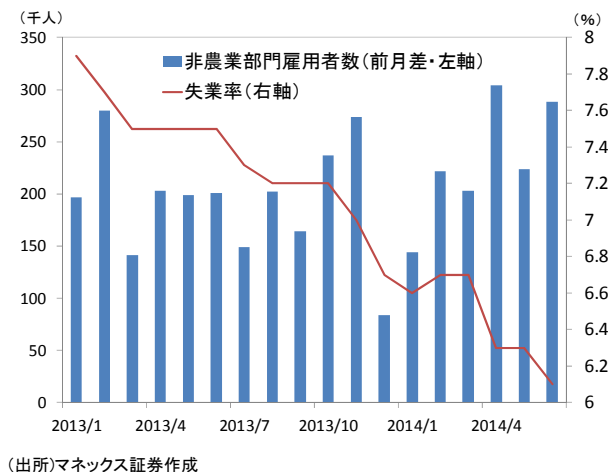
### 先週発表された主な経済指標

非農業部門雇用者数（前月差） 6月 +28.8万人 市場予想 +21.5万人 前月 +22.4万人  
 失業率 6月 6.1% 市場予想 6.3% 前月 6.3%

3日に発表された雇用統計で、非農業部門雇用者数は前月から28.8万人の増加と市場予想を大きく上回りました。失業率は6.1%と同じく市場予想を上回る低下を見せました。労働市場の回復が加速していることを示す格好となりました。

その他にも1日に発表された新車販売台数は2006年7月以来の高水準を記録。ISM製造業景況感指数はヘッドラインがわずかに低下したものの、新規受注は改善しているなど中身は堅調でした。以上のように各指標は米国景気のさらなる拡大を期待させる内容でした。

非農業部門雇用者数と失業率



### 今後発表される主な経済指標

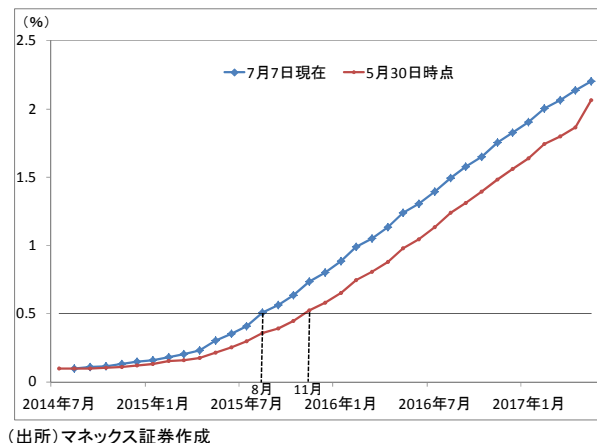
7月9日 FOMC 議事要旨 (6月17日・18日開催分)

6月中旬に開催されたFOMC(連邦公開市場委員会)の議事要旨が公表されます。最初の利上げ時期についてどの程度議論が深まっているのか注目されています。

堅調な経済指標の発表を受け、マーケットには従来よりも利上げ時期が早まるとの思惑が広がっています。右のグラフはFF金利先物の利回りを5月末と現在で比べたものですが、直近約1ヶ月の間に、利回りが0.5%に達する時期、つまりマーケットが利上げを見込んでいる時期が2015年の11月から8月にシフトしていることがわかります。

FOMCでも利上げ時期や金融緩和政策の出口戦略について深まった議論がされていることが判明すれば、株式市場の一時的な売り材料となる可能性があります。

FF金利先物のイールドカーブ



## マーケットビューー決算発表シーズンが本格化ー

先週のマーケットビューーでは、ISM 製造業景況指数がもしもネガティブサプライズだった場合、一時期な株価の下押し要因となることに注意が必要と述べました。結果的に同指数はヘッドラインこそ小幅に低下したものの、「新規受注」が上昇するなど中身は堅調でした。加えて雇用統計や新車販売台数などその他の重要指標がポジティブサプライズだったことから、ダウ平均はついに 1 万 7000 ドルの大台を突破しました。

いよいよ企業の決算発表シーズンが本格化します。8 日のアルコア (AA) を皮切りに、11 日にはウェルズ・ファースト (WFC)、14 日にはシティグループ (C)、15 日にはインテル (INTC)・ジョンソン・エンド・ジョンソン (JNJ)・ゴールドマン・サックス (GS) など注目度の高い企業の決算発表が続きます。

上期の堅調な決算内容が確認されるとともに通期の利益見通しが上方修正され、株式市場は上昇基調を強めると見えています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

### 利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会